令和３年度 第２回 沖縄県 SDGs 専門部会　Peace（平和）部会
議事概要

日時：2022 年３月 10 日(木)15:00～16:30
場所：沖縄県庁 ほか（オンライン会議）
出席者：
（委員）
　新垣委員、石垣委員、岩村委員、喜納委員、玉那覇委員、村上委員
（沖縄県）
　島津 SDGs 推進室長、SDGs 推進室 平良主幹

（事務局）
それではこれから会議を始めさせていただきます。資料は資料１と資料２を事前に送らせていただいております。不備がありましたら事務局にご連絡いただきましたら、改めて送らせていただきますのでよろしくお願いします。基本的には資料の説明をさせていただいた後に意見交換という形で進めさせていただきますが、質疑とかご意見あるときは手を上げていただくとかリアクションボタンとか、アクション起こしていただくと進行からご指名させていただきますのでご協力をよろしくお願いします。発言時以外はミュートでお願いいたします。それでは早速始めさせていただきたいと思いますが、その前に第１回会議では新垣委員の日程調整が合わなくてご参加いただけてないところがございまして、本日は最初の参加になりますので、一言ご挨拶いただければと思います。よろしいでしょうか。

（新垣委員）
皆さんこんにちは、新垣誠です。何人かの先生方ともいつもいろんな委員会などで顔合わせている方もいるので安心しました。一応資料をざっと目を通した感じぐらいですので、まだ何か発言できるか分かりませんがどうぞ皆さん宜しくお願いします。

（事務局）
ありがとうございました。すみません急に振りまして大変失礼いたしました。ありがとうございます。それではここから進行役に進めていただきます。

（進行）
委員の皆様こんにちは。年度末のお忙しい中 Zoom 会議ご参加いただきまして誠にありがとうございます。12 月に沖縄 SDGs アクションプランの骨子についてご意見をいただきまして、その後市町村や関係団体にも意見照会をして、その後庁内調整をして３月１日に知事を本部長とする推進本部でこのアクションプラン素案を取りまとめたところです。今回この

素案についてまた広く皆様からご意見ご助言をいただきたいと思っておりますので、忌憚のないご発言どうぞよろしくお願いいたします。まず、初めに事務局から資料を説明しまして、その後委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。事務局よろしくお願いします。

（事務局）
資料１から順を追って説明させていただきます。資料１の１ページ目につきましては検討の経緯でございます。12 月の専門部会でご意見いただきまして、その後骨子をとりまとめました。その他関係団体、市町村の意見照会もさせていただいて、それを踏まえて素案を今回まとめたということでございます。骨子の時にはなかったですけどもローカル指標、もしくは SDGs のゴール・ターゲット。ここも整理をさせていただいて素案としてまとめています。３月１日に推進本部にて素案を決定して、意見を色々と収集していくこととしておりまして、SDGs 専門部会第２回の会議を開催しております。同時並行で関係団体、市町村、おきなわ SDGs パートナー登録団体、407 団体登録しておりますが、そちらにも意見照会させていただいています。これらの意見をまとめながら最終的に３月末に案を決定し、パブリックコメントを経て５月にアクションプランを決定するスケジュールを予定しています。

次のスライドですけども、骨子から変更したポイントをまとめたものになります。まず一番ですけども専門部会、市町村、関係団体等の様々な意見を踏まえ再検討したこと、アドバイザリーボード会議からの国連のそういったグローバルなスタンダードの視点も踏まえながら整理するという意見にも対応し、文言と指標等も検討再検討しました。さらに、SDGs のゴール・ターゲットを追記しております。併せてローカル指標というのを設定させていただきました。国連の目標とか、もしくは国連の指標があります。国連の指標、あとは内閣府で地方創生 SDGs ローカル指標という地方自治体、市町村とか県で使っている指標を使ったらいいじゃないかというものを有識者会議でまとめたりしていますので、そういった指標、新たな振興計画に関連する成果指標を検討しました。これは沖縄県振興審議会の中でも議論いただいて指標一覧として整理されているものがあります。そういったものもインプット材料として活用しながら検討を行いました。

基本的には全ての目標に目標値を設定する予定ですが、新たな振興計画に関連する成果指標については令和４年に目標設定の検討をするというスケジュールになっていて、どうしても今現時点で目標設定ができないというところもいくつかあります。それについては設定され次第入れていくというところで今「令和４年度に設定する」という書き込みをさせていただきました。

もう一つ４番。これは骨子には全く入っていなかったのですが、新たに追加をさせていただきました。例えば５つの基本原則や、他の専門部会でもありましたが、統合的な取り組みの視点を追記しています。アクションプランは非常にたくさんの項目がありますけども、どれか一つをやればいいということではなくて、色々な取り組みを、連携ということも含めながら相乗効果、相互関係性を意識しながらやるべきだという意見があり冒頭に入れており

ます。さらに、人間の安全保障の観点、誰もが生き生きと暮らせる社会を作っていくという大きな視点を入れるべきだという意見が多くあり追記しております。さらに、ジェンダー平等については関係団体の色々な方からもご意見があって、アクションの中で一つジェンダー平等、ジェンダーに関する目標・アクションも入っていますけども、そういう一つの項目ではなく全ての取り組みに対してジェンダー平等という観点で取り込むべきだという大きな概念として入れるべきだ、全ての取り組みと関連させるべきだというご意見がありましたので、アクションの一覧表とは別に前段でアクションプラン全体に必要な視点として考え方を追記しております。

統合的な取り組みということでモデル事例というのを追加させていただきました。これは非常にアクションプラン自体幅が広すぎていろんなアクションがたくさんあるのはいいが、話が散ってしまってなかなか見えにくいという話があって、それよりも具体的なテーマで具体的な取り組みとそれぞれの関係性を議論するべきだというご意見がいくつかありました。これについては統合的な取り組み、経済、社会、環境というのは三つの側面からいろんな取り組みを連動させていくという考え方が確かに主としてありますので、いくつかのテーマを絞りましてモデル事例として概要図を整理したというのが今回の経緯でございます。このモデル事例をベースに色々なステークホルダーが色々な取り組みをさらに広げていくという、そういったところに繋がるといいなと思いつつ、今５つのテーマを設定していますけども、これについてはまず内容的には専門部会の議論も踏まえながら追加していくということと、テーマについても増やしていく予定をしております。さらに毎年見直しをしていくということを考えていますので、こういったところでも忌憚なくご意見いただければと思っています。

次のページは、アクションプランの構成となります。基本理念とか将来像。この辺は変わっていませんがここに大きく統合的アプローチとか人間の安全保障、ジェンダー平等などの重要な視点を加え、そのもとに目標、ローカル指標等を整理しています。ローカル指標は目標に対しての代表的なものを設定しております。これらのもとに、第１回の会議の資料では施策等を記載しておりましたが、県の施策というと基本的な施策で数百、主な事業で数千事業となることから、専門部会等で議論が難しいと考えております。先ほど触れた統合的モデル事例というのを入れた上で、具体的な議論をしながら、テーマや内容を充実していく方向で議論や考え方の共有を進めていければと思っております。

右側はプラットフォーム、推進体制の図になっております。変更点はこちらとこちらに当時プラットフォームが二つ書いてあったので分かりやすく整理したというところであまり大きな変更点はございません。アクションプランを作ってそれとは別に、沖縄県もそうですし市町村、企業、団体、あとはいろんな方々との連携体制というのを作った上でアクションプランをこの中で実践していく。やっていく中で課題等が出てきたらフィードバックしていく。そういう循環、ぐるぐる回していくような形で進めていきたいとそういうイメージをまとめた図になります。

次のページをご覧ください。指標の検討の入り口での考え方を簡単にご説明させていただきたいと思います。

１ポツにあるグローバルスタンダードの視点で検討をするようにという意見を踏まえ、検討したという経緯になりますが、国際指標もかなり情報量も多いですし、指標数も多いのでどういうふうに作業としていくかの考え方を整理してから検討を開始することとしました。当初の考え方と最終的な結論と合っていないところもありますので、ご留意ください。

検討にあたってどんな指標があるかというところを書いていますけども、まずグローバル指標というのが国際指標です。国際指標というのがまず一つあると。これは国連でまとめたものです。もう一つローカルの指標としては内閣府で先ほどありましたけど地方創生SDGs ローカル指標というのがございます。この地方創生ローカル SDGs 指標についてはデータベースがもうでき始めています。これは指標自体が内閣府の有識者会議で作っていますけども、これは今見直し作業も行われています。2019 年に設定して、今見直しの検討をしているところで、まだ最終結論にはなっていませんが、とりあえず当時の 2019 年に設定した指標をもとに、都道府県、市町村、これをスコア化したデータベースというのがローカル SDGs プラットフォームとして公開されています。これは法政大学の川久保研究室がまとめているものですが、この川久保先生という方がこの有識者会議の委員でもある。そういう関係にもなっています。

これらのデータを基に大阪府において指標分析を行った先行事例があります。国際的な日本の評価というのをこういう国際指標の達成度をもとに整理をしながら、国内における自治体と書いていますけど、大阪府の評価というのをローカル指標でデータベースを分析して、この二つの軸で大阪の状況はどうなっているかというのを整理しています。これをもとに例えば沖縄県に当てはめて検討してみるともう少し目標設定等がクリアにならないかというアプローチをしたということですが、最初に結論だけ申し上げると、特にこの内閣府が作った地方 SDGs ローカル指標は、この分析はつまりこのデータベースになりますけども、他地域との比較が可能ですが、分析結果と地域の課題認識のズレが生じてくる可能性があります。これは指標設定の性質上そうなってくると思いますが、課題として出てきています。

次のページは、内閣府、これが国連のゴールでございましてターゲットが 169 あります。その抜粋ですけども、国際指標というのが国連の中で設定されていて内閣府が地方自治体向けにこんな指標で分析したらどうかというのがかなりたくさん、これだけで 230 いくつかありますので、このベースになると 300～400 という形になりますけども、そういうデータがあります。例えば事例で言うとこの貧困関係の話だと例えば国際指標だと貧困ラインを下回る人口の割合みたいなものが設定されていて、内閣府のローカル指標だと年間収入階級別の世帯割合というのが良いのではないか。これは当然統計データがありますが、これは 15,000 人以上の市町村が公表されていて、それ以下の市町村というのはデータとしては公表されていないので、これを使って都道府県ベースでやっていくというのがこれいいのかどうかというのが分からないというところがあって、今これはペンディングになってい

ます。他にもこういう女性、子どもの割合という所だと、全然指標設定ができていないとか、あとは公共サービスへのアクセスというところに対して、基礎的サービスにアクセスできる世帯の人口割合という国際指標があって、ローカル指標は何かというと上下水道普及率となっています。こういった指標設定の事例が各所にあって、これが分析していってどうなっていくかというところが気になっていくところです。

次のスライドは、国際指標の分析を、このレポートを使って大阪府が整理したということで、またこういったものが更新されてくるのかなと思います。ローカルプラットフォームも参考までに付けています。こちらも後ほどご覧いただければと思います。

次のスライドは、大阪府の事例の指標分析の事例です。国際的な日本の指標というのが低い、高いということで１軸。縦の軸が自治体 SDGs 指標から見た大阪の国内での評価、高い、低い。そうすると四つの分類ができるということで、それぞれの分類に応じて考え方を整理しています。

次のスライドに、同じような２軸で沖縄の指標を整理していくとどうなったかを示しています。国際的な日本の評価ですから、貧困という指標で高くなるというのは分かりますが、自治体での中での評価でも沖縄県の状況は良いという整理になっています。ご存知の通り沖縄県は子どもの貧困問題ということで全国的にも非常に厳しい状況だということですので、ズレが出てきています。これは指標設定の関係によるもと思っています。健康福祉についても、健康寿命は課題があると認識していますが、評価は高くなっています。

これらの点に留意しつつ、こういう分類をもとにした考え方として、例えばこういう場合にはローカル指標を中心に。こういう場合には国際指標から考えるといった形で検討の入口の考え方を整理しています。国際指標、あとは地方創生 SDGs ローカル指標。これも視野に入れながら、使えるものは使いながら、場合によっては地域の実情とかアクションプランの内容、目標、そういったものも合わせて独自の指標というのを設定して行く形で検討を行いました。

次のスライドから指標一覧を示しています。49 設定されています。

例えば性の多様性というのがアクションプランの中で一つ最初に出てくるんですけども、これについて国際指標の中に指標はありません。地方創生というのが先ほど言った地方創生 SDGs ローカル指標、内閣府の指標になりますけど、内閣府の指標の中にもありません。そのため、独自の指標を設定しております。

性の多様性に対しては自治体の中で体系的な統計データが少ないのでので、まずこの内容で整理しております。例えば、障がい者雇用率についても国際指標、地方創生の指標見ながら独自の指標を設定しております。ジェンダー平等については、民間での管理職に占める割合は進んでいると認識していますが、割とあまり進んでいない自治体の指標を設定しています。この指標に関連しては国際指標で管理職に占める女性の割合という指標がありますので、国際指標にマッチするような指標という考え方で整理しています。

例えば人口当たりの医師数については地方創生 SDGs の指標の中には１人当たりの医師数

というのがあって、これも内閣府の指標と親和性があるのでこれは内閣府の指標を使って他の都道府県と比較というのもできるような形にしているという形をとっています。

スライドの 12 まで飛びますが、32 番の脱炭素関係では、１人当たりの二酸化炭素排出量という指標を設定しています。これは国際指標、地方創生、内閣府の指標の中にもこういった指標はございません。１人当たり二酸化炭素排出量というのは COP の中で国際指標として活用されているので、これは国際指標的な要素として設定しておりますが、SDGs の国際指標にはないので、独自指標としての設定となっています。再生可能エネルギー電源比率については国際指標とがありますので設定しています。このように、国際指標、内閣府の指標、独自の指標。独自の指標については今度できる新たな振興計画の成果指標なども活用しながらそれぞれにちゃんと目標とか内容とかを見ながら検討を行いました。

資料１の最後スライドの 15 のところでプラットフォームの図がございます。県内の企業団体を登録するよう既存の仕組みというのがありますが、一般の方々はその枠組みにも入っていないというところもあって、緩やかな会員登録制度を作る方向です。このような枠組みを作った上で、事務局を設置して普及、啓発、交流、連携、参画さらにはプロジェクト立案等を決めたコーディネート機能というのも来年度から設けたいと考えております。こういった皆さんの活動がもっと連携したり、もしくは情報を共有されたりいろいろな取り組みが創出されるようなそういう環境作りをしていこうということで、プラットフォームということで予定しているということは報告事項としてあげています。

最後のページはプラットフォームの事務局機能としてこんな感じで考えています。というのを整理したものです。後ほどご覧いただきながらご意見等ございましたら適宜お知らせいただければと思います。これが資料１の説明でございます。

続いて資料２を説明させていただきます。大変申し訳ないです。２ページ目以降から本文が始まりますけど、まず２ページ３ページは骨子と基本的には内容が一緒です。元々書いてあった内容になります。この４ページから新たに追加した部分になります。

４ページの左側については主要原則、５つの主要原則とかバックキャストとかよく聞く話をまとめています。これは実施指針、すでに決定している沖縄県 SDGs 実施指針の中からエッセンスをまとめていますので、これは説明割愛させていただいて右側が新たに入った部分になります。

アクションプランにおける重要な視点ということで、最初の第一段落目が統合的取り組みということで、これの具体化というのが後半の方に出てくる統合的なモデル事例というところに繋がってきます。複数の取り組み、アクションプランのそれぞれの取り組みを単体で捉えるのではなくて、複数の取り組みの相互関係性とか相乗効果、それを重視してやっていきましょうという所をまず入り口で書いているというところです。

もう１つに２段落目がご存知の通り SDGs の基本理念が誰１人取り残さないという考え方になります。色々な基本的な根拠というかベースになっている考え方がありますけども、例えば人間の安全保障というのが 2005 年世界サミットでもまとめられていると。すべての個

人、特に脆弱な方々の権利をちゃんと尊重していきましょうと。公平な、平等な世界そういう感じてまとめられていて、他の部会でもSDGsの大きな方向性として全ての人々が自分らしく生き生きと活躍できる社会。そういったものを目指していくという考え方をしっかりと打ち出していくべきだというご意見がありました。そういう意味では子どもたちは潜在的に、潜在力を活躍できる社会。そんな色々な観点がございますけども、そんなところも含めて人間の安全保障という視点を重視していこう。そういうことを最初の方に大きく入れています。これは子どもの権利条例もありますし、最近、性の多様性等の話も含めて全ての人の人権を尊重するという考え方だと思います。

その次にジェンダー平等に関する考え方をまとめています。国連でもジェンダー平等に関連する取り組みはすべてのSDGsの達成性に不可欠な手段と位置づけています。アクションプラン全ての取り組みにおいてもジェンダー平等というところは非常に重視してやっていきましょうという方針を記載しております。

最後に国のSDGsの方向性というのもまとめています。これは国内の方向性もちゃんと踏まえながらやるべきだというご意見を踏まえたものです。国では毎年事業や予算額をまとめたSDGsアクションプランを毎年作っています。その中で重要重点事項というのがあります。これは先の12月の閣議決定でまとまったものですけども、この中で感染症対策、グローバルヘルスです。感染防止もありますし、医薬品開発等も含めて話になっています。あとは女性活躍、デジタル田園都市構想、クリーンエネルギー、海洋プラスチックごみなどのトレンドが示されています。

次のページからアクションプランの具体的な目標、アクションというのがあります。こちらは表記が少し骨子と変わっています。分かりやすくなるようにSDGs推進の目標という形で整理させていただきました。それに対してアクションということでございます。この目標に対して関連するゴール・ターゲット、そして指標ということで具体的な目標値、あとは参考値として全国比較ができるようなものがあれば参考値を入れるようにということで整理をさせていただきました。主に優先課題全般に関わることが多いですが、16 ページが中心になるかと思いますけど、第１回の会議の中で委員の皆様からいただいた意見も振り返りながら少しこちらの説明をさせていただきたいと思います。

まず石垣委員からは非常に色々ご意見をいただきました。当時のご意見の中で、確かユネスコ憲章の話もされていて、非常に今この環境においてなかなか染み渡る考え方というか、内容だなと思っております。確か戦争は人の心の中でできるというお話、人の心の中で平和の砦を築くべきだというそういうお話をいただいていたかなと思います。そのためには教育と文化と交流。そういったところが重要だというお話があって、改めてそういったところを重要だなと噛み締めているところでございます。文化につきましては先日沖縄県でシンポジウムを開催させていただきまして、東京大学の北村先生という方に基調講演いただきましたが、もともとパリでユネスコにいらっしゃった経緯があって、同じようにユネスコのお話をされてまさにこのお話しされていました。その中でSDGsの全体通して文化という要

素が非常に少ないと。国連の指標とかを見ると。これは入っていないことが当時問題になっていた内容で、本来はこういった平和というところも含めて文化・教育という役割は非常に大きいですけど、とお話しされていました。なので、今回のSDGsのアクションプランの中で文化という要素はなるべく入れるようにしているつもりだったんですけど、改めてユネスコの考え方も含めて、平和の構築も含めて文化、教育、交流。こういったところが重要だなというふうに思って自信を持ってこの辺をどんどん書いていこうと思ったところでございます。石垣委員からは自動車のお話をいただいていて、データは確認したりしながら考え方を今整理しているところでございます。あんまり大きくアクションプランの中で記載内容を変更したというところが見えにくいかもしれませんが、基本的に環境という面では公共交通とか、もしくは歩くというところも含めた考え方と、あとは自動車のPHVとか再生可能エネルギーと組み合わせた電気自動車の運用とかシェアリングとかそういった運輸部門でのツールの使い方を変えていくという、そういうところに力を置いて整理をしたつもりでございます。不十分なところもあるかもしれませんけども我慢が大事だというお話もご提言もいただきました。我慢をとにかくこの中で皆様に求めると参画のところで、いろんな方々に参画いただくというところで少し我々のやっていきたい方向とズレが出てくるところがあったので、できれば例えば普及啓発の情報発信の中でやはり知っていただいて、その上で我慢も含めて選択肢を見つけてもらうという、そういうアプローチをやっていくべきではないかという、そういう議論にいきついたところでございます。また色々と意見ご指導いただければと思います。

あとは岩村委員からはコーディネートの話とか、地域課題の解決に向けた自治体とか企業が連結、枠組みを作ることが重要だというご意見をいただきました。これは喜納委員からもうコーディネート機能が大事だというご意見も同じようにいただいたところで、それでプラットフォームの先ほどの絵をお示ししたところですけども、コーディネーターもしっかり来年度から置いていろんな企業、もしくは自治体との連携というのを促進していこうということで取り組んでいくことにさせていただきました。来年度からしっかり取り組んで参ります。

喜納委員からはジェンダー平等、ジェンダーに関してもう少し厳しい内容にしていくべきではないか、もしくは何かしないとかもう少し踏み込んだ記載内容にすべきではないかというお話をいただきました。ジェンダーについては６ページです。６ページの優先課題①の４です。アクションについては項目がたくさん増えたということではないですが、例えばここ、元々はジェンダーバランスという記載でしたがジェンダーレスということで関係部局とも調整して記載内容を変更したり、あとは決めつけをなくしていこうということで、何々をしないようにしようという、そういうアドバイスも踏まえながら整理をしたり、あとはこちらの記載内容も見直しをさせていただきました。あらゆる場面でということで整理させていただきました。何より冒頭でも少し大きい枠組みで全てのアクションに対して、取り組みに対してジェンダー平等というのは重要ですという考え方も整理させていただいた

というところでございます。

玉那覇委員からは、16 ページに戻りますけど、平和教育とか平和ガイドの観点でご意見をたくさんいただきました。まずは地域の方々にしっかりと平和の発信をする。子どもたちです。地域の子どもたちにということと、県外からの修学旅行を含めて県外の子ども達にも発信すべきだというこの二つの話と、ガイドをしっかり育てるべきだというところでご意見いただいていて、これはこちらに修学旅行生という、観光客という書き方をしていますけど、県外の方々に平和学習、もしくはガイドを育成していく、担い手の育成というところをまとめて整理をしているというところでございます。

村上委員からは基地の話でこの辺は難しいというお話も前回させていただきました。主体性がなかなかないところもあって求めるという結論になりがちですけど、県外に向けた情報発信は主体的にできるなら入れるべきだというご意見いただきまして、その通りということでこの辺入れさせていただいたという経緯がございます。

駆け足ではございますけども前回の、もっと色々議論いただいていたんですが、主な意見として反映状況、対応状況というのをご説明させていただきました。最後にスライドが飛びますが、23 ページ以降になります。統合的モデル事例の話です。これは沖縄県が SDGs 未来都市に選定された時の、国に提案した絵になっていて、これは参考として経済、社会、環境というのがこういう形で回ってきますという一つ事例をまとめたものでございます。たくさん書いてあるので、読みづらいところがあるので、テーマが分散している部分もありますので、これを踏まえながら例えばということで、当初脱炭素の関係でまとめるとこういう形、社会、経済、環境ということで、それぞれの取り組みのところから相乗効果、相互関係性が出てきますという、そういう統合的な絵というのをまとめてみたというところです。例えば企業の中でこういった取り組みをしているが、こういうものと組み合わさると相互効果がこう出てくるのであれば、社会的な活動をしているところと連携していこうか。そういうアプローチは出てくるといいなというのを期待しています。こちら左上にそれに関連する主な SDGs のゴール・ターゲットというのを記載させていただいて、これに関連するゴールというのを入れているというところでございます。

脱炭素、食品ロスとサーキュラーエコノミーということで、食品ロスって食べられる物を捨てないというものですけども、どうしても捨ててしまうものが出てくると。廃棄物というのはどうしても出てくるので、それをリサイクルすることで廃棄物の量を減らしていくということも合わせて取り組むべきだという、そういうご意見があって、そういう観点で全体を組み立てて整理したという経緯があります。これは割と環境部会で議論があった内容です。

健康長寿とスポーツ振興ということで、健康社会を作っていくという考え方と、健康、スポーツ、医療も含めてですけどビジネスというのを創出していくということと、それに対して自然環境も含めてブランド化をしていく、付加価値を上げていくというところが組み合わさって、それで自然の保全、保護というのを組み合わせてやっていくという考え方になり

ます。
　子どもの貧困の解消と経済成長。これは子どもの貧困対策計画。これは非常に膨大な取り組みがありますけども、そういった取り組みと所得を上げていく経済活動というところをうまく回していくということと、あとは生活困窮世帯への食支援という取り組みがあります。フードドライブという名前でございますけど、そういう取り組みで未利用食品、資源の有効活用というのもしていくということで、経済、社会、環境の循環という整理になっています。
　最後に多様な人材が育成される地域づくり。これは地域コミュニティづくりとあとは自然と伝統文化を組み合わせたようなコンテンツと、働き方とかそういったものを組み合わせた形でより住みやすい地域づくりというのはしていきましょうというのはまとめたという絵になります。駆け足でございますけどもこの５つの事例を今回まとめましたが、今後人材育成とか持続可能な観光とかテーマをどんどん増やしていって、色々な時代の中で SDGs のアプローチというのが見えるようにしていきたいと考えているところでございます。

（進行）
事務局ありがとうございました。玉那覇委員は参加されていますが音声を聞いてらっしゃるが不安定なので画像オフとなっているというご連絡ありました。皆様よろしくお願いします。それではアクションプラン素案の内容です。ご意見そしてご質問でも構いませんのでどうぞよろしくお願いします。まず村上先生いかがでしょうか。お願いいたします。

（村上委員）
ありがとうございます。すいません率直な意見になりますが、文字がいっぱいあって、すごく難しいことが書いてあるみたいで。本当に説明がたくさん必要なのは事実で、書きたいこともいっぱいあってだと思いますが、見た方が難しいことが書いてあってという印象をもたないか、こういうふうになるしかないのかなというのを、まずお聞きしたいと思います。

（進行）
今後、他の委員からも県民がどう取り組んでいけばいいか、子ども達がどう取り組んでいけばいいか、もう少し分かりやすく見やすくというようなご意見もありましてこれは県の中でのアクションプランということで大きくなっていますけど、それぞれが分かりやすくというものを次年度以降、もう少し普及啓発用に、コンパクトにできるような内容をできたらいいなというふうに考えてはいるところです。このままだとすごい量なので、これはこれですけども、もう少し噛み砕くということも必要かなというふうには考えておりますが、いかがでしょうか。

（村上委員）
はい。それであれば安心しました。そうですね。県民の方が見て「え？何？SDGs？」と思っている方とか、子どもとかが見ても分かりやすく、これでパッとある程度分かるみたいなものが、今後検討してもらえるのであればよかったです。

（進行）
ありがとうございます。では喜納先生いかがでしょうか。よろしくお願いします。

（喜納委員）
ご説明を伺って前回の議論を踏まえて、かなり特にジェンダー平等を大きな枠の中に位置づけたというところはすごく評価できるのではないかと思って、良かったなと思って聞いていました。それと少し勉強になったのは、SDGs そのものが国連の指標ということで、やはり沖縄県もグローバルスタンダードを目指していかないといけないんじゃないかというのも確か申し上げたと思うのですが、実際グローバルのスタンダードの方が低いこともあることに気づきました。要するに日本は先進国ですので、グローバルスタンダードの方が日本にとっては低かったりするということで、県内の課題認識と分析結果のズレがあるというところはすごく勉強になって、調べていただいてよかったなと思っています。なので、じゃあどこに基準を置くのか、つまり、県はこれからより高みを目指すのか、あるいは県にとって足りないところの底上げを目指す指標にしていくのかという所が少し議論になるのかなというふうに思いました。

あと昨日８日たまたま国際女性デーということでいろんな方の発言をメディア等で聞いたのですが、やはり日本は、制度は割と整っているが、その制度を活用する組織文化とかそういうところが遅れているという点がかなり指摘されていました。ということは、１人１人のジェンダー意識をどうやって上げていくかというところに指標の基準を置くべきだと思いました。要するにどんどん上位職に管理職に女性を登用したところで、組織文化そのものが変化していなかったり、社会のジェンダー意識が変化していなかったりすると元も子もないので、その辺を拾い上げるような指標が必要なのかなと思いました。

最後にもう１点ですが、文化に関連する指標が SDGs にないという話で、例えばウチナーグチの再活性化と SDGs はどう関係あるんだろう？とずっと疑問だったんですが、最近ハワイ大学のハワイ先住民の先生とお話する機会があって、興味のある方はうちの大学のホームページに 70 周年記念事業としてその方のレクチャーがアップされていますので見ていただきたいですが、要するに文化というのは陸で起こっていることで、陸の人々の意識の表れであり、言葉を復興することによって、先人の知恵をちゃんと認識することによって海を守ることができるというような話をしているんです。つまり、人間の文化、人々の営みそのものが自然環境を守るコミュニティを作っていくことと深く関わっているということをおっしゃっていたんです。なので、やはり文化についても沖縄は少し意識的に指標化していく方

がいいのかなと思いました。以上です。

（進行）
喜納委員、貴重なご意見ありがとうございました。そうです。８日国際女性デーでした。

（事務局）
文化の話はそう言っていただけると非常に心強いです。ウチナーグチとか書いたりしましたけども、何の関係があるのかとよくいろんなところから議論が出ましたけども、最近ようやく先生のお話も含めて、パートナーシップというかそういうことを支える根幹的なものとして文化というのは非常に大事だと再認識しました。沖縄の文化を知らずに他国の文化を知っていくというのも偏りがあるので、自分たちのところの文化をしっかり、歴史も含めて知った上で、他国の色々な所の文化、生活、生き方いろんなものを理解していくというところが多文化共生ということになってくると思うので、そういうところが最終的には平和の構築というところに繋がるだろうなと。こういうところはおそらく後で石垣委員から話があると思いますが、ユネスコの基本的な考え方にも重なるのかなと思ったりしているところです。ありがとうございます。ジェンダー平等については最近ジェンダーギャップ指数とか色々な報道もあって割と沖縄は国内でも評価が高い所はありますけども、あれは民間企業の登用の話が一つと、指標の中に比較で入れるのは全国、国の目標値だったりします。登用率の話です。国の目標値からすると沖縄というのは都道府県別でもクリアしていいますが、元々国の目標値が低いという批判が多々あります。世界的な方向性も含めて、日本は遅れているという意見もありますので、こういったところは沖縄が日本を引っ張るわけではないですけどもより高い目標を立てて進めていった方がいいだろうと思っているところです。ただ、指標がご存知の通り、男女共同参画計画の中でもたくさんあって、どういったものを抽出して見える化していくかというのは、今後もご意見いただきながら指標については、毎年見直し作業の中で指標を入れ替える、もしくは別のものがないかどうかを検討していく、こういったことも他の指標もたくさんいただいていますので研究させていただきながら検討していきたいと思っています。

（進行）
ありがとうございました。新垣委員、いかがでしょうか。よろしくお願いします。

（新垣委員）
１回目休んでしまったので言わないといけないこといっぱいあるのかなと思っていますが、２つあります。まずは SDGs 自体です。これが国連サミットの合意を得るための妥協の産物という所があるので、そういうところから性の多様性が入っていない、サミット参加国の中

には同性愛で死刑となる国もありますので、そういう意味で SDGs が完璧ではないというところからの、もう一つの問題意識が指標のやはり設定という所に行くかなというふうに思います。性の多様性でも SDGs では無理だけど例えばユニセフや他の国連機関、UNFPA などはかなり進んだ取り組みをしていますので、指標の設定をする時に、先ほど喜納先生からありますけどもグローバルスタンダードって何よという話ですが、どこに足並みを揃えるかというところだと思います。グローバルスタンダードというのはあって無いようなものだと自分は思っていて。なので、国際比較をするときにどの国と比較をするべきか、またどの地域と比較をするべきか。沖縄県自体はたして日本国とどの比較をしていくのかというところにも関わるのではと思ったりもしています。

ジェンダー平等に関しては管理職の数という指標の話がございましたが、誰１人取り残さないという話からするとむしろ、もちろん管理職に女性がいてその意思決定のプロセスに加わるということは社会を変革していく上で非常に重要なのですが、沖縄に関して言えばひとり親世帯、特にシングルマザー世帯、最近その増加傾向にある女性の自殺、あとは失業からの生活苦。こういった女性をどうやって救っていくかというところにジェンダー平等というものの本質があるのではないのかなというふうに思います。その女性の中におけるまた階級の問題、管理職に就ける女性の社会的な階級と、そうではない人たち、沖縄県はこれが顕著だというふうに思います。産業構造やその雇用形態を見ても特に非正規の多さだとか、そういう女性に本当に偏っていたり負担がいってきたり不平等性が非常に目立つというところです。あともう１つ沖縄県の CO2 の話とかありましたが、これは漠然とそのいわゆる SDGs の指標の部分に足並みをそろえるとか日本とかというよりも、例えば UNWTO です。国連世界観光機関が定めているいわゆるここにもありますが、持続可能な観光のあり方。そういういわゆる UNWTO の取り組みに賛同して取り組んでいるような日本でもありますけどもそういう地域、もしくは世界的にもそういうところ。そういうところから CO2 の問題、環境における社会環境というのは考えていくべきじゃないかなと思います。最近観光で若い世代が免許を持っていないから沖縄観光めんどくさいみたいな話がありましたが、鉄軌道がない沖縄なので CO2 に関しては沖縄県民プラス観光客かなりアウト部分があって、ツーリズム的にももうエコどころか自転車走る道もないわ、だからといってオルタナティブな交通機関ができるのかとか、電動キックボードやという話はまだ全然進んでいないのでこの辺のところはどこの観光地にその指標を合わせるのかとか、さっきの UNWTO を睨みながらの指標設定というのが必要なのかなという気がしました。観光絡みで言えば、貧困の問題も先ほどのグローバルスタンダードの指標の話になりますけども、サハラ以南のアフリカの絶対的貧困のところのグローバルスタンダードではなくて、やはり日本の場合は相対的貧困という問題がありますので、これも先進国の地域の中で相対的貧困を抱えている地域との比較的な指標が必要なのかなという気もします。

あとは文化という話が出てきました。文化とジェンダー平等の話ってありますが、これは非常に沖縄県の中では深刻で、いわゆる家父長制をベースとしたいわゆる文化というもの

が築かれてきたという経緯を考えると、この先沖縄文化の良き本質を残しながら、その中でどうやって今の新しい世の中に合わせたジェンダー平等を反映させた文化の継承のあり方が必要なのかというところだと思います。最近は観光絡みでもシビックプライドという話があって、いわゆる地域社会がどれだけ自分たちの文化に誇りを持ち、そこで自分たちのことに自分たちの存在自身に、そのアイデンティティにプライドを持っているかというところが、その観光客を受け入れるという上でも非常にポジティブな効果があるということを先ほどの UNWTO とかでも入っています。なので、そういうところから見てもやはり文化というところに力を入れる必要はあるんじゃないかと。

文化絡みでもう１一つ言えば、いわゆる環境科学的なというかいわゆる経産省から補助金が降りるような、そういう側面においては SDGs というのはすごく進みがちですが、ジェンダー平等、平和、こういう人権系の金がなかなか降りないところは非常に進んでいない感覚があり、それは昔から日本という国が人権問題に疎い、国際社会から様々なバッシングを食らいながら、人種差別撤廃条約や様々な人権がらみのことで遅れを取って勧告食らっているのに、ジェンダー平等もそうですけども改善しようとしないというところがあって、沖縄県はそこからもう一歩抜きん出る必要があるのではないかと思います。

シビックプライドで言えば昨今問題となっているこのヘイトスピーチ、沖縄ヘイトの問題もそうですが、自分は子ども達への影響ってどんなもんだろうと。特に SNS のデジタルネイティブの世代の子ども達はそういう沖縄ヘイトに触れる機会が多いと思います。そういう中で、人間の安全保障の話もありましたが、そういう問題を沖縄はどう捉えていくべきなのかというところも気になります。

あとはやはり平和の問題でこれは難しいという話ですが SDGs 自体が国連という話であれば、国連安保理自体が戦争おっ始めている状態なので、何とも言えないというか、そこにグローバルスタンダードを求めますか？とやはり思います。沖縄県は地上戦を経験したところから歴史的に沖縄が築いてきた遺産、平和運動の遺産だとか、既にもういわゆるグローバルスタンダードを理念的に超えたものが自分はあるんじゃないかと思っていたりして「これは SDGs では取り扱うの難しいです。」みたいな。そういう後ろに進む、後退してしまうような状況ってどうだろうと思ったりもします。

あとは大きく人権を考えると、やはり人権を侵害する一つの大きな理由として今の先ほど食品ロスの話もありましたし、環境を破壊の話から様々な問題、その人権侵害もありますけども、それって今の経済の在り方が非常に大きい気がしていて、そういうところから先ほどの文化との絡みあるかもしれませんが、先ほどのハワイのネイティブの方々の、インデジェナスの方々の価値観、沖縄もそういう文化的価値観を持っているんじゃないか。自然との共存だとか、そういう乱開発に対する戒めだとかいうのは沖縄の価値観にもあるような気がしていて、これを今の現代のライフスタイルに合わせていきながらどうやってそういう持続可能な社会を作っていくかというところを、その地域性、地域の文化との絡みの中から見出していくというのも一つありかなということを思いました。すいません、長くなりまし

た２日分です。

（進行）
新垣委員、ありがとうございました。本当に様々な視点で大きな視点、この文化、ジェンダー含めひとり親というところでも非常に幅広くご意見いただきましてありがとうございます。やはり、人権問題に関しては重要な視点ということで項目の前に置きましたし、やはりジェンダー平等というところを重要な視点というところで入れさせていただいているところです。事務局から少しコメントありますでしょうか。お願いします。

（事務局）
きめ細かく幅広くご意見いただいて全部今シャープに答えられないところがありますのでご了承いただければと思います。ご意見を踏まえながら検討していきたいと思います。ジェンダー平等についてはおっしゃる通りでございます。ただ、文化とジェンダーの考え方というお話、非常に踏み込んだ考え方でハッと目が覚めるというか気づいたところがありました。価値観のすり合わせみたいなところも大きく出てくるとは思うので、皆で知恵を絞りながら文化を残しながら、公平で平等な社会というのをどう作っていくかというところを、若い人たちの知恵もお借りしながら議論していくということかと考えています。学校教育現場、中高ではSDGsの浸透がどんどん進んできておりますので、若い人たちを中心とした課題解決の議論というのも非常に期待しているところでございます。ただ、ジェンダー平等については本当にまだまだ足りていないところが多々あって、幅広く認知を上げている、考え方の切り返ししていくというところですけども、これだけ問題意識が高まっているというのは評価しています。組織的に国としての制度的にもっとしっかりと加速するように取り組みも必要だなと思ったりしていて、これは色々と議論していきながらまとめながら進めて、指標についてはもう少しいろいろと研究をさせていただきながら、観光の話、CO2の話も含めて、まさに色々な国際機関での議論というのも当然ありますし、今後研究させていただきたいと思います。ヘイトの話もぜひ、いろいろと議論していければと思います。平和の話で、遺産の話、平和的な遺産というか戦争遺産的な要素の話も触れていただきました。この辺は玉那覇委員からも、平和の発信、よく沖縄の心なんて言い方もしますけども、平和というのは大事ですよというのは沖縄を起点にどんどん発信していくべきだというのは非常に重要で、いらっしゃる方々、いらっしゃらなくても外に対する発信というのはどんどんやっていこうと思っているところです。そういうところでこれまでの戦争体験、負の遺産ではありますけども沖縄に蓄積されている色々なものというのをしっかりと伝承して発信していくというところが大事だなと改めて気づかされました。引き続きご指導ご意見色々といただければと思います。

（進行）
ありがとうございました。では石垣委員よろしいでしょうか。よろしくお願いします。

（石垣委員）
皆様本当にお疲れ様です。沖縄 SDGs アクションプラン素案、まとめられる大変なご労苦をくぐられて一つの形になります。でも５月ですよ。その間にもう少し考え直したらどうかなというものを後から入れます。その前に事務局からユネスコ紹介していただいて感謝です。ありがとうございます。新垣誠先生、お久しぶりです。３月８日の琉球新報記事、拝読いたしました。幸せというキーワードをもとにしてということで、報道されていたと思いますが、勉強になりました。この SDGs 皆さんと一緒にこうして勉強できるのが嬉しいです。大変感謝です。これからここを見直したらいかがかなというものだけを感じたものを言います。

素案の２ページで沖縄 SDGs アクションプラン（素案）の算用数字１。アクションプラン策定のとありますね。背景及び目的です。それの下３行に自分事が出てきますよ。この自分事。非常に大事だと思います。これを強調する書き方に持っていけば、普通の文ならば、ベタ文ならばゴシックにするんですが、これ全体がゴシックですから。だからここ、自分事を強調したらいかがなというふうに感じました。

それから４ページの右側です。アクションプランにおける重要な視点の第２段落。人間の安全保障 2005 年世界サミット成果文書。ここの下ですけども、全ての人々が自分らしくイキイキと活用できる社会、未来を担う子どもたちが潜在力を発揮できる社会の実現、というふうに書かれております。でも SDGs の根本的な意味合いから来たら、逆だと思うんです。未来を担う子どもたちから書いてこないと、具合悪いんじゃないかなというふうに私は思うんです。勉強させていただきました。一橋大の名誉教授先生からですけども、そもそも SD という言葉が出てきたのが 1987 年。環境と開発に関する世界委員会報告書。我ら共通の未来と。Our Common Future というものがあるようです。この報告書の中で最初に SD が出たそうです。それからリオ会議。リオ会議の時にその事務局長をなさっていた方がストロングという方ですけども、この方が SD について述べているところがあって、やっぱりここら辺りから来ています。未来というものが先に出てこんといかんのじゃないかなと。未来の子ども達が活躍するものを保証するために、今の我々がどうするかということが問われると思うんです。そこらあたり検討なさったらいかがかなと個人的には思います。

あとはジェンダー。これが前面に出てきて非常にありがたいです。嬉しいです。そんなことを感じました。それから新垣誠先生のおっしゃったこと、シングルマザーの問題とかこれも非常に嬉しかったんですが、そこらあたりも検討させていただけたらと思いますけども、その時に前の段階で県知事部局の課長相当職以上。４ページに出てきます。６ページに「知事部局の課長相当職以上に占める女性の割合」あるいは「県の審議会委員に占める女性の割合」というのがあります。何で県だけですか？市町村まで入れて調査すぐできると思いますが？市町村にすぐ聞いたらすぐ出てくると思います。そこら辺りまで含めないと県だけが

何かなという感じがしたんですけども、いかがでしょうか。あとは９ページの一番上です。一番上のナンバー１の下の段で、組踊。沖縄伝統芸能を理解した児童生徒の割合。現状値は84パーセントというのがあります。これは理解しているって本当に理解しているんですか。84 パーセントの子どもが理解してくれるというのは本当に感謝ありがたいんですけども、理解じゃないんじゃないかなと思うんですが。ただ組踊の公演とか何かの公演を見た聞いた、それみたいなものに触れたということになるんじゃないかなと思うんです。本当に理解されていますか？相当難しいと思いますよ？これ理解は。というふうに感じました。

それからグッと飛びますけど、16 ページの下ですけども、平和祈念資料館による平和講話等の実施学校数というのがあります。なぜ平和祈念資料館だけが問題になるんですか？と思いました。実施学校数が52校とあるが、これは小中校合わせて全県の何パーセントかと。百分率で持っていった方がいいんじゃないかなと。学校数ではなくて、百分率がいいのかなと思いました。率がいいんじゃないかなと感じたんです。その時に思ったんですが、平和祈念資料館だけではないのではないかなと。玉那覇さんも活動してらっしゃるように、色々な活動が県内で行われていると思うんですよ。少なくとも学校がらみで言うと、これは県立学校教育課とか教育委員会の義務教育課とか行ったらデータ取れると思いますが、平和教育を実施した学校。平和祈念資料館だけではなくて平和教育を年間大体全部やっていると思いますが、実施した学校というところから攻めていったらどうかなというふうに感じました。

あとはここで探せなかったのですが、資料１の最後の14ページです。この資料２で探せなかったもんですから資料１の14ページでいきますと、14ページのナンバーの51で、県の支援した伝統芸能関係団体が実施したイベント講演等の参加者数というのがあります。これ参加者数ですよ。では57の方で県が支援した文化交流イベントの来場者数というのがあります。これ意味違いますか？来場者数、参加者数、ここら当たり文言を整理した方がいいんじゃないかなと思いました。基本的には上、参加者数ではなくて来場者数じゃないかなという気もします。いかがでしょうか。ここら当たり見ていただけたらと思います。

あとは新垣先生がおっしゃったシングルマザーについての指標とかです。取り組んでいただけたらありがたいなと確かに感じました。以上です。

（進行）

石垣委員、非常に多くのご意見ありがとうございます。委員の皆様、本日意見を言っていただく、または後で気づいた点等がありましたら様式をまた前回みたいに送らせていただきますので、そちらで気づいた点を後ほどまた言っていただくことも可能ですのでよろしくお願いします。では、事務局から少し補足をさせて下さい。

（事務局）

組踊の理解の話をいただきました。これは教育庁と意見交換して検討してみたいと思いま

す。最終的に案とかアクションプランの中でどこまで整理できるかというのはまだ見えていませんが、基本的には見直しも含めて検討していきますので意見交換したいと思います。同じような形でいくつか指標がございます。伝統文化の話とかも平和学習数の話とかも、平和祈念公園の話もあります。どういった指標で統計データとしてまとめられるかというのも教育庁等と相談しながら、何かできないかということで議論していきます。伝統文化と文化イベントの話は参加者数、来場者数、言葉が整理できていないので検討しますが、文化は文化で、伝統文化は伝統文化で、イベントの性質が違うところがあって、あとは参加者というか、来場者数という所になりますけど、なかなか文化関係のイベントも含めた県の中で良い統計データというのがあまりなくて。まずはこれで部局と相談しながらまとめた経緯がありますけども、この辺は研究しながら整理をしていきたいと思っています。

（進行）
石垣委員、ありがとうございました。岩村委員よろしくお願いいたします。

（岩村委員）
色々ご検討いただきましてありがとうございます。私からは前回申し上げた意見にもあったコーディネーターの話です。これは組み入れていただいて、他にも意見があったにせよ組み入れていただいて非常にありがたいと思います。マッチングということが取り上げられていましたけども、マッチングは当然コーディネーターの役割に入りますが、どちらかというと私のイメージは課題解決の伴奏者になっていただきたいといいますか。課題解決を一緒にやっていく時に一言で言うとコンサルタントですが、いわゆる従来のコンサルタントというよりは一緒になって伴走していくという人がいないと、結局組み合わせたからあとやってという感じだとやはり進め切れないのかなというのが１点ありますので、そこは差し支えなければ少し発展的に組み入れていただければよろしいかなと思いました。
　次は、先ほどグローバルスタンダードにそぐわない面があるということに関連して、本当に SDGs は完璧ではないという言葉に尽きると思いますが、同じような意味で他府県基準からの脱却というんでしょうか、無いものねだりしないという観点も重要かなと思います。例えば働くことについて正規雇用というのを基準に今の段階ではあげられていますけど、正規雇用を指標にした途端にジェンダー平等とか働き方改革ということと相反する結果になる場合も少なくないと想像ができます。働き方改革で正規ではない、非正規というのが適切かどうか分かりませんけど、いろんな働き方をしていこうという重要な流れがありますので、いわゆる正規雇用に固執し過ぎないことも重要かなというふうに思いました。あとは目標からローカル指標、目標値で検討段階なので、目標に対して少しズレている指標がありますよということは仕方ないと思いますが、最終的にこの目標から指標値に落とし込んだ、ブレイクダウンした理由というか考え方。このプロセスを明確にするということがむしろ説明責任の観点から重要かなと。なぜこの目標からこの指標になったの？というところが不

透明だと、取り組む人にとって唐突感があるということがあると思いましたので、ここも一生懸命検討なさったプロセスがあると思いますので、参考資料などで本アクションプランではこういう考え方で現状ではこれを代表的な指標として取り扱った、みたいなところを説明していただけると割と県民としては協力しやすいのかなというふうに感じました。

最後にこれは各論的な所ですけども、資料２のテーマ２というところがあると思いますが、食品ロスと循環経済のところです。これに地産地消というキーワードがないのが私は物足りないなとも感じました。食品ロスにしてもサーキュラーエコノミーにしても地産地消というのはかなりポイントになってくるものだと思いますので、そこはやっぱりキーワードとしてあった方がいいかなという気がしました。主なところは以上です。ありがとうございます。

（進行）
岩村委員貴重なご意見ありがとうございます。そうです。モデル事例②に盛り込めるような形で検討、地産地消です。重要だと思いますので入れるような形で検討していきたいと思います。では事務局コメントお願いします。

（事務局）
ありがとうございます。コーディネーターの件で伴走という話はおっしゃる通りで、最近ハンズオン支援みたいなことが主流になってきておりますので、企業支援です。くっつけるだけということではなくてそういうことも意識してやりたいと思います。ありがとうございます。ここは３つありますけど、プロセスを明らかにというのはおっしゃる通りで SDGs 公平性、透明性が重要ですのでどこまでどういう形でやれるかというのは工夫をさせていただきたいと思います。資料１もそのプロセスをと思って一応まとめた経緯があって、さらにもう一つ踏み込んでというところを検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。あとはテーマ②の話は地産地消おっしゃる通りで、そもそも食品ロス、サプライチェーンの中でどれだけ減らしていくかというのは大きなテーマとなっていて、サプライチェーンのルートが長ければ長いほどロスも大きくなったりしますので、そういう意味では地産地消という枠組みというのは非常に重要かなと思いますので、これも含めて検討させていただければと思います。

（進行）
ありがとうございます。よろしいでしょうか。では、うらおそい歴史ガイドの玉那覇委員、聞こえますでしょうか？玉那覇委員、聞こえますか？事務局で対応をお願いします。接続されるまで、他の委員からご発言があれば、挙手にてお願いします。いかがでしょうか。村上委員よろしくお願いします。

（村上委員）
すいません先ほど具体的なところの話をしなかったので、６ページの４番のジェンダー平等のところはアクションがとても薄い、やっぱり特に２番目もです。２番目に働き方改革としてというところも、働きたい女性の社会進出を促すというのはこの書き方は、働きたい女性の、働きたい人に対してのことだけでもあるし、引っかかります。あとはやっぱりここもっとアクションに、学校に関しても教育に関しても地域に関しても何か入れていかないといけないじゃないかなというふうに思います。あとローカル指標。先ほど説明もありましたが、本当に他の方の意見もあったように、何をローカル指標にするかってとても難しいと思うんですが、私もパッとは思い浮かばないんですけども、やっぱり県に関しての審議会とか管理職ではなくて、もうトータル的な賃金格差とかです。あとは全体的な企業なりも含めた管理職の割合にしたとしても、入れていくような指標がないかなというふうに思います。男女共同参画でも細かくあると思いますが、大きな SDGs と考えた時にもう少し県全体が見えるような指標を工夫する必要があるのではないかなと、私も考えたいと思います。

（進行）
貴重なご意見ありがとうございます。そのおっしゃる通り優先課題①の４番に関してはアクションが我々ももう少し入れるべきじゃないかなと考えていたところです。ご指摘ありがとうございます。では事務局いかがでしょうか。

（事務局）
働きたい女性のところは見直しをします。アクションはもう増やしたと思っております。指標は見直しも含めて検討させていただきますが、あんまりたくさん増やして、他の目標とのバランスがとれなくなることも留意しています。指標がたくさんあるというと、全体が見えにくくなるという意見もありますので、良い知恵を捻り出して、今後の見直しも含めて検討させていただきたいと思っております。

（進行）
ありがとうございます。玉那覇委員接続大丈夫でしょうか？ご発言お願いします。ミュートを解除していただけますか？いかがですか？難しいですか？
今、岩村委員から皆さんにチャットで指標についてコメントいただきました。ありがとうございます。岩村委員いかがですか？お願いします。

（岩村委員）
先ほどの検討プロセスです。いたずらに作業を増やすという意味ではなくて、目標に対して指標が１対１に連動していないように見えるのではないかというところについては、やはり説明があった方が読み手に対して優しいかなというところです。ですので、必要なところ

だけ、必要と感じたところだけということで捉えていただければと思います。

（進行）
ありがとうございます。そのように工夫をしてみたいと思います。ありがとうございます。時間も迫ってきたのですが、接続の関係で今回玉那覇委員出席いただいていたのですが、ご発言をお願いするのが難しいようです。前回お話ししました通り、様式をまたお送りさせていただきますので、それにまだ気になる点、今回お話足りなかった点とかがありましたらご意見等をお送りいただければと思います。玉那覇委員には別途、個別にご意見を伺いたいと思います。では皆さんありがとうございます。事務局に進行を戻したいと思います。

（事務局）
ありがとうございました。本日の会議につきましては議事概要を事務局で作らせていただいて、後ほど委員の皆様に送らせていただきます。内容ご確認いただいてご意見反映した形で最終的には県のホームページで公開させていただきたいと思います。これをもちまして会議終了したいと思います。本日はありがとうございます。